

静岡新聞

夕刊

〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1
静岡新聞社
電話(054)282-1111
月決め3,300円(本体価格)
1部50円(税込み)
©静岡新聞社2020
浜松総局 浜松市中区旭町11-1
プレスタワー内
電話(053)455-3355
沼津市魚町1
サンフロント内
電話(055)962-0380
東部総局

2020年
(令和2年)
9月9日
水曜日

紙面から

AIで配達は無駄減らそう
静岡の医師 屋台で健康相談

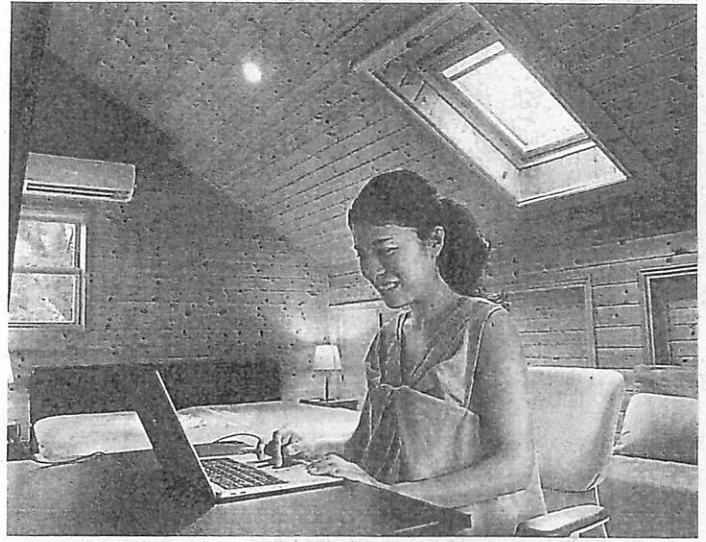
3 2

自己流の絵、人生全て本番
全米テニス大坂が4強入り

小説 2
ラジオ 68

仕事＋休暇 ワーケーション 県内へどうぞ

受け入れ態勢着々



伊豆高原にオープンしたワーケーション宿泊施設。代表の森屋千絵さんは「新しい働き方として今後も広がる」と話す＝8月下旬、伊東市

風追い透浸ワークテレ

ワーケーション(ワークと休暇(バケーション))を組み合わせた造語。観光地などに滞在しながら、パソコンやテレビ会議システムなどを活用して仕事をする。職場に行かずに働く「テレワーク」の一種で、急減した訪日外国人客に代わる観光振興策としても期待されている。政府は新型コロナウイルスで落ち込んだ地域経済の回復につながるとして、普及を進める方針を示している。

読者コンシェルに
新型コロナウイルス特集

休暇を楽しみながら仕事をこなす「ワーケーション」を受け入れる動きが県内で広がっている。新型コロナウイルスの感染拡大でテレワークが定着したことを追い風に、首都圏からアクセスが良い伊豆半島を中心に拠点施設が開業。自治体や宿泊施設も「地域に活気が生まれ、観光振興につながる」と期待を寄せる。

変わる
日常
新型コロナ

伊東市の伊豆高原に7月、新たなワーケーション宿泊施設がオープンした。「伊豆ハウ

スラグジュアリーログ暖炉」。高速インターネットやモニターを備え、庭にはブランコもある。午前中に働き、

午後には家族とレジャーへ出掛け、夜はバーベキュー。そんな新しい働き方を提案する。

代表の森屋千絵さん(33)はコロナを機に数カ月間のワーケーションを実践した後、都内から伊東市へ移住した。「首都圏から近く自然も豊か。ワーケーションにはうってつけの場所」と強調する。県内でいち早くワーケーションを推進してきた下田市。都内の不景気は「観光地としてのベ

ルスを生かし、地元と首都圏の人材がつなが

る」といい、産業振興課